



2026年12月期 第2四半期（中間期）決算短信〔日本基準〕（連結）

2026年8月12日

上場会社名 ポーターズ株式会社 上場取引所 東
コード番号 5126 URL <https://www.porters.jp>
代表者 （役職名）代表取締役 （氏名）西森 康二
問合せ先責任者 （役職名）取締役 （氏名）天野 竜人 E-mail ir@porters.jp
半期報告書提出予定日 2026年8月12日 配当支払開始予定日 —
決算補足説明資料作成の有無：有
決算説明会開催の有無：無

（百万円未満切捨て）

1. 2026年12月期第2四半期（中間期）の連結業績（2026年1月1日～2026年6月30日）

（1）連結経営成績（累計）（％表示は、対前年中間期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 中間純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2026年12月期中間期	1,135	10.4	162	4.6	159	9.8	104	5.7
2025年12月期中間期	1,027	10.0	155	△10.1	145	△15.6	99	△19.0

（注）包括利益 2026年12月期中間期 97百万円（20.0%） 2025年12月期中間期 81百万円（△26.0%）

	1株当たり 中間純利益	潜在株式調整後 1株当たり 中間純利益
	円 銭	円 銭
2026年12月期中間期	64.35	62.11
2025年12月期中間期	61.91	58.81

（2）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2026年12月期中間期	1,951	1,680	76.1
2025年12月期	1,875	1,586	73.5

（参考）自己資本 2026年12月期中間期 1,484百万円 2025年12月期 1,379百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2025年12月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2026年12月期	—	0.00			
2026年12月期（予想）			—	0.00	0.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2026年12月期の連結業績予想（2026年1月1日～2026年12月31日）

（％表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	円 銭
通期	2,469	15.5	331	△7.5	331	△9.9	212	64.2
								129.95

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当中間期における連結範囲の重要な変更：無

(2) 中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：有

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：無
- ② ①以外の会計方針の変更：無
- ③ 会計上の見積りの変更：無
- ④ 修正再表示：無

(4) 発行済株式数（普通株式）

- ① 期末発行済株式数（自己株式を含む）
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数（中間期）

2026年12月期中間期	1,631,700株	2025年12月期	1,631,700株
2026年12月期中間期	一株	2025年12月期	一株
2026年12月期中間期	1,631,700株	2025年12月期中間期	1,603,400株

※ 第2四半期（中間期）決算短信は公認会計士又は監査法人のレビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当中間決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) キャッシュ・フローに関する説明	3
(4) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 中間連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 中間連結貸借対照表	4
(2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書	5
中間連結損益計算書	5
中間連結包括利益計算書	6
(3) 中間連結キャッシュ・フロー計算書	7
(4) 中間連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	8
(セグメント情報等の注記)	8

1. 当中間決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当中間連結会計期間における我が国経済は、雇用・所得環境の改善やインバウンド需要の増加等を背景に、緩やかな回復基調で推移しました。一方で、原材料価格の高騰や円安の長期化による物価上昇、米国の通商政策や世界的な情勢不安等、景気の先行きは依然として不透明な状況が続いております。

このような経済環境の中、当社グループでは「Matching, Change your business」をミッションに掲げ、テクノロジーで世界の雇用にもっとも貢献するというビジョンのもと、ポーターズセグメントにおいては、人材クラウドマッチングサービスであるPORTERSを提供するとともに、新規投資事業セグメントにおいては、求人媒体であるatB Jobsの開発・運営、及び派遣バックオフィス業務用システム「KIKAN flex」の開発等を行ってまいりました。この結果、当中間連結会計期間の経営成績は、売上高1,135百万円(前年同期比10.4%増)、営業利益162百万円(前年同期比4.6%増)、経常利益159百万円(前年同期比9.8%増)、親会社株主に帰属する中間純利益104百万円(前年同期比5.7%増)となりました。

報告セグメント別の業績は以下のとおりであります。

なお当社グループの主力事業であるPORTERSの業績と当社グループの将来の成長に寄与する新規投資事業の業績を適切に評価するため、当第1四半期連結累計期間より、報告セグメントをポーターズセグメントと新規投資事業セグメントに変更しております。

(ポーターズセグメント)

当中間連結会計期間において、セールス面では、見込顧客の獲得のためにデジタルマーケティングへの投資を継続的に行うとともに、PORTERS Magazineの発行によって市場における潜在顧客へのアプローチに努めました。これに加えて、各種オンラインセミナーの実施等により営業活動を強化した結果、多数の新規顧客の獲得に繋がりました。また、PORTERSの開発面では、利便性向上のためのPORTERSの既存機能の改修及び効率的な業務遂行のためのパフォーマンスの改善を行いました。これらの活動の結果、新規顧客のID獲得は良好に推移し、ID数の伸長にも寄与いたしました。さらに、当社顧客である人材紹介会社や労働者派遣会社において、業務効率化のためにIT投資を積極的に行うという姿勢は継続したことから、PORTERSは堅調に成長し続け、2026年6月末時点で有料ユーザーID数は17,263IDとなりました。

この結果、ポーターズセグメントにおける当中間連結会計期間の売上高は1,132百万円(前年同期比10.7%増)、セグメント利益は231百万円(前年同期比6.8%増)となりました。

(新規投資事業セグメント)

当中間連結会計期間において、オフショア開発サービスについては、外部顧客向けの開発受注を控え、主に当社グループ内の開発業務を行いました。また求人媒体であるatB Jobsについては、既存顧客のリピート率向上のための施策としてカスタマーサポート機能の強化、並びに同サイトの利便性向上のための開発及び改修を行いました。

この結果、新規投資事業セグメントにおける当中間連結会計期間の売上高は2百万円(前年同期比57.8%減)、セグメント損失は66百万円(前年同期はセグメント損失61百万円)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当中間連結会計期間末における資産合計は1,951百万円となり、前連結会計年度末に比べ75百万円増加いたしました。

流動資産は前連結会計年度末に比べ61百万円減少し、1,279百万円となりました。これは主に、法人税等の納付等に伴う現金及び預金53百万円の減少によるものであります。

固定資産は前連結会計年度末に比べ137百万円増加し、671百万円となりました。これは主に、株式会社KIKAN flexにおいてソフトウェア開発を行ったことに伴うソフトウェア仮勘定108百万円の増加によるものであります。

(負債)

流動負債は前連結会計年度末に比べ18百万円減少し、270百万円となりました。これは主に、法人税等の納付による未払法人税等8百万円の減少によるものであります。

(純資産)

当中間連結会計期間末における純資産合計は1,680百万円となり、前連結会計年度末に比べ93百万円増加いたしました。これは主に、親会社株主に帰属する中間純利益の計上104百万円による利益剰余金の増加によるものであります。

(3) キャッシュ・フローに関する説明

当中間連結会計期間における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は、前連結会計年度末と比べて53百万円減少し、874百万円となりました。

当中間連結会計期間末における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動によるキャッシュ・フローは、103百万円の収入(前年同期は82百万円の収入)となりました。これは主に税金等調整前中間純利益159百万円の計上、売上債権の増減額24百万円、法人税等の支払額74百万円等によるものです。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動によるキャッシュ・フローは、159百万円の支出(前年同期は141百万円の支出)となりました。これは主に、無形固定資産の取得による支出111百万円によるものです。

(4) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2026年2月13日に公表いたしました業績予想につきましては、現在のところ変更はありません。なお、当該業績予想は本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる結果となる可能性があります。

2. 中間連結財務諸表及び主な注記

(1) 中間連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2025年12月31日)	当中間連結会計期間 (2026年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	928	874
売掛金	305	281
仕掛品	14	21
その他	94	102
貸倒引当金	△0	△0
流動資産合計	1,341	1,279
固定資産		
有形固定資産	9	12
無形固定資産		
ソフトウェア	24	20
ソフトウェア仮勘定	383	491
無形固定資産合計	407	511
投資その他の資産	116	146
固定資産合計	533	671
資産合計	1,875	1,951
負債の部		
流動負債		
買掛金	34	42
未払金	49	38
未払法人税等	75	67
契約負債	18	31
賞与引当金	30	30
その他	80	59
流動負債合計	288	270
負債合計	288	270
純資産の部		
株主資本		
資本金	65	65
利益剰余金	1,304	1,405
株主資本合計	1,370	1,471
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	8	13
その他の包括利益累計額合計	8	13
非支配株主持分	207	195
純資産合計	1,586	1,680
負債純資産合計	1,875	1,951

(2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書
(中間連結損益計算書)

(単位: 百万円)

	前中間連結会計期間 (自 2025年1月1日 至 2025年6月30日)	当中間連結会計期間 (自 2026年1月1日 至 2026年6月30日)
売上高	1,027	1,135
売上原価	257	355
売上総利益	770	779
販売費及び一般管理費	615	617
営業利益	155	162
営業外収益		
受取利息	0	0
雑収入	1	0
営業外収益合計	1	1
営業外費用		
為替差損	11	4
雑損失	0	0
営業外費用合計	11	4
経常利益	145	159
税金等調整前中間純利益	145	159
法人税等	70	65
中間純利益	75	93
非支配株主に帰属する中間純損失(△)	△23	△11
親会社株主に帰属する中間純利益	99	104

(中間連結包括利益計算書)

(単位: 百万円)

	前中間連結会計期間 (自 2025年1月1日 至 2025年6月30日)	当中間連結会計期間 (自 2026年1月1日 至 2026年6月30日)
中間純利益	75	93
その他の包括利益		
為替換算調整勘定	5	3
その他の包括利益合計	5	3
中間包括利益	81	97
(内訳)		
親会社株主に係る中間包括利益	103	109
非支配株主に係る中間包括利益	△21	△12

(3) 中間連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前中間連結会計期間 (自 2025年1月1日 至 2025年6月30日)	当中間連結会計期間 (自 2026年1月1日 至 2026年6月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前中間純利益	145	159
減価償却費	5	5
のれん償却額	10	—
貸倒引当金の増減額(△は減少)	0	△0
賞与引当金の増減額(△は減少)	23	0
受取利息	△0	△0
為替差損益(△は益)	10	0
売上債権の増減額(△は増加)	△6	24
棚卸資産の増減額(△は増加)	△0	△7
仕入債務の増減額(△は減少)	4	8
契約負債の増減額(△は減少)	△3	12
その他	3	△26
小計	192	177
利息の受取額	0	0
法人税等の支払額	△110	△74
営業活動によるキャッシュ・フロー	82	103
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△0	△4
無形固定資産の取得による支出	△129	△111
貸付けによる支出	△10	—
敷金の差入による支出	—	△41
保険積立金の積立による支出	△1	△1
投資活動によるキャッシュ・フロー	△141	△159
財務活動によるキャッシュ・フロー		
新株予約権の行使による株式の発行による収入	2	—
連結の範囲の変更を伴わない子会社株式の取得による支出	△45	—
財務活動によるキャッシュ・フロー	△42	—
現金及び現金同等物に係る換算差額	△4	2
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△106	△53
現金及び現金同等物の期首残高	821	928
現金及び現金同等物の中間期末残高	714	874

(4) 中間連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用の計算)

税金費用については、当中間連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前中間純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(セグメント情報等の注記)

【セグメント情報】

I 前中間連結会計期間(自 2025年1月1日 至 2025年6月30日)

(単位: 百万円)

	報告セグメント			合計	調整額	中間連結損益 計算書計上額 (注)
	ポーターズ	新規投資事業	計			
売上高						
外部顧客への売上高	1,022	4	1,027	1,027	—	1,027
セグメント間の内部売上高又は振替高	11	35	47	47	△47	—
計	1,034	40	1,074	1,074	△47	1,027
セグメント利益又は損失(△)	216	△61	155	155	—	155

(注) セグメント利益又は損失(△)の合計額は、中間連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当中間連結会計期間(自 2026年1月1日 至 2026年6月30日)

(単位: 百万円)

	報告セグメント			合計	調整額	中間連結損益 計算書計上額 (注)
	ポーターズ	新規投資事業	計			
売上高						
外部顧客への売上高	1,132	2	1,135	1,135	—	1,135
セグメント間の内部売上高又は振替高	19	13	33	33	△33	—
計	1,152	16	1,168	1,168	△33	1,135
セグメント利益又は損失(△)	231	△66	165	165	△2	162

(注) セグメント利益又は損失(△)の合計額は、中間連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2 報告セグメントの変更等に関する事項

当社グループの主力事業であるPORTERSの業績と当社グループの将来の成長に寄与する新規投資事業の業績を適切に評価するため、当中間連結会計期間より、報告セグメントをポーターズセグメントと新規投資事業セグメントに変更いたしました。なお、前中間連結会計期間のセグメント情報につきましては、変更後の区分方法により作成しております。